しんらん同人

No,538
5・6 月号

浄土真宗本願寺派 誓願寺
〒171-0052 東京都豊島区南長崎1-3-8
【電話】03-3950-7828 【ホームページ】http://www.seiganji-tokyo.jp/

【ご本山（京都）御影堂】

伝灯奉告法要 団体参拝時撮影

われも ひかりの うちにあり

誓願寺住職　古賀尚之

お同行から「終活」自分の死に向かってどのように準備をしておけば良いのかという相談を受ける事がある。

ご法義については、阿弥陀様にお任せしているので大安心ですよと伝え、身の回り品のことについては三分類に整理されることを勧めていた。

分類一、元気なうちに自分の責任で処分する物。
分類二、自分が生きているうちは手元に置いておくが、亡くなったら処分してもらう物。
分類三、自分が亡くなっても、持っておいてほしい物。

簡単だと思っていた分類一の処分であるが、些細な事で少し考えが変わってきている。

三か月ほど前まで、愛用の木製のお箸で食事をしていたが、最近そのお箸が無くなっていることに気が付いた。

永年使っていた食器乾燥機が壊れ新しいのに取り替えて間もなく、木製のお箸が少し変形し出した。乾燥機の高い温度で木の部分が反ってきたようである。確かに曲がったお箸は使いにくい。次第に別のお箸を使うようになったが、お箸立てに愛用のお箸がしばらく並んでいた。

あるべき物があるべき所にあるという想いがあり、使わないが自分ではなかなか捨てられない物の一つであった。

坊守もお箸の曲がりに気付いたようで、乾燥機の熱のせいかしらと言っていたが、何時しかそのお箸がお箸立てからなくなっていることに気付いた。使い慣れたお箸に執着心があったわけではないが、何時か使うだろう。もったいないとの思いが、物を処分するという行為に歯止めをかけていたのだろう。

自分の責任で処分出来れば良いのであるが、時には誰か自分が知らないうちに処分してくれればと思わないでもない。

こうして分類一が、分類二になっていくのも仕方がない。しかし、これからの過ごしやすい季節。少しずつ思い出の品々を区分されることはお勧めしたい。

誓願寺前々住職 岡本泰雄（昭和五十七年定例法座より）

「私は本当にお浄土にまいれるか」

あるおばあさんが癌の手術をするという前日に、私に会いたいとおっしゃるので、病院に行ったんですね。

その方はとにかくご法義を大事になさる方でしたね。私が病室に入るなり「先生、私は明日手術をするのですが、もう年だし果たして生きられるかどうか判りません。これが最後になるかもしれませんのでお尋ねします。私は本当にお浄土にまいれるんでしょうか。」とおっしゃるんですね。そういう人に私はそれまで何度も会いました。いよいよ突き詰めて命が終わるなと考えられた時に、そういう思いが湧いてくるのでしょう。

そうではない時はね、頭で考えてああなってこうなってとちゃんと整理しているつもりでおるんですね。

ところがいよいよとなったら、もう理屈では役に立ちませんからね。聞いておろうが知っておろうが何の役にも立ちませんね。

健康な時は安心していますけれど、いざとなると段々不安を感じ悩みだす人もいるんですね。

本当にね、いよいよ大丈夫かなと自問していくと、怪しいのがたくさん出てくるようですね。

それでね、そのおばあさんの話ですが。これで大丈夫ですかねとおっしゃって「もろもろの雑行雑修・・・」を出してこられて、今まで色々お説教は聞いたけれども、最後のところは、私は蓮如上人からいただいた「もろもろの雑行雑修自力のこころをふりすてて、一心に阿弥陀如来われらが今度の一大事の後生御たすけそうらえとたのみもうしてそうろう」一心に弥陀を頼む。雑行雑修の心を捨てて一心に弥陀を頼めと。そうすれば必ず往生が出来るのだということを、あそこにおっしゃっていらっしゃいますが、私はその通りに今させてもらっているのですが、これでいいでしょうか？と、おっしゃるんですよ。

いかに「私」というものが、ギリギリの線まで自分の考えというものに頼ってしまう生き物か。そこから出ることの出来ない者であるかということをしみじみ思いましたね。

その時、ご本人は真剣なんですよ。冗談を言っているのではないんですよ。その人はね。

「もろもろの雑行雑修自力のこころをふりすてて・・・・頼み申してそうろう」先生！この通りにしていますから、これでいいでしょうか？、とね。

聞くことの難しさ。その難しさはいつでも自己中心の聞き方をしている、自分の都合で聞いておる。だから自分はそれで納得しましたから、これでいいんですか！というのは、納得しましたという心を当てにしている。

そうでしょう、その心でまいれると思っている。我々は自分を守っている。ま、どうやら自分自身を安心させているのですね。

だから私はその時に言ったんですよね。おばあちゃん、蓮如上人からいただいたそのお言葉は本当にその通りなんですよね。ただ「これでいいですか！と」これが違っている。あなたは、これでいいですかと自分の心の方を押さえている。

これでいいのではない、私はどこまでいったっていいものは何もないので、必ず救う！一心に弥陀を頼め！必ず救い、往生一定させてやらずにおかんという如来様の願力で救われていくんですよね。あなたが如来様の願力を戴いたから間違いないと思うのではない。そういう心で行くのではないんですよ。

親さまは、救わにゃいかんというお慈悲であって。ああそうですかと自分で思った心でまいるのではないんですよ。と、もうした次第です。

その時にしたたとえ話が矢左衛門という人の話です。

あるお寺の門徒総代だった方で、八十五歳位、熱心に聴聞された方でした。いろんな話を聞いておりましてね。

ところがある日、自分はこれで大丈夫だろうか。本当に救われるのだろうか。それから益々考えたんですね。まてよ！如来様の本願力がそんなに強いものなら、いかにしぶといこの私の胸の中にも「ああそうですか」と証明する心が起こりそうなものだ。

ところが、今になってこんなに聞いた自分が「ああそうであったか」と安心出来ていないというのですね。

如来様からたまわる信心を、自分はまだもらっていない。実は如来様には皆にやるという信心はないのではないか。如来様の真心なんて本当にあるのなら、もう何十年と聞いた自分の胸の中にその真心が至り届いているはずなのに。この年になっても安心が出来ていないということは。そんな真心なんてないから届いてこないのだと、考えるようになったんですね。

さっと立ち上がって日頃お世話になっている旦那寺へ押しかけて行きまして、住職の前でね「私はもう門徒総代をやめる」と。

住職は突然のことにびっくりしましてね。どうしたのかと聞くと、「もう何十年と聞いているのに自分は安心が得られれん。如来様のお慈悲が本当なら、もういくらしぶとい自分でも、もう八十五にもなって安心が出来ない。つまり、如来の真心が自分の胸の中に来ていないということを考えると、如来様のお慈悲なんて嘘だ。だから私は総代を辞めたい。お寺には参らん。」こう言った。

これを聞いていた住職はなだめないんですよね。

断固として「そうか、門徒総代というのは住職と一緒にその寺の先頭に立ってお念仏を勧め、お念仏を喜ぶ者となって歩いてもらう者なんですよ。その総代が、自分は如来様の真心がわからんのへったくれのと言っているようでは、私はとんでもない見

当違いをしてしまっている。お前に言われるまでもない、寺には一切参ってくれるな。さっさと出ていってくれ。門徒であることも辞めてくれ。」こう言ったのです。

さあ、こうなるとカッカきている矢左衛門さんはなおさら「やっぱりそうか、俺はだまされていた」と、真っ赤になってさっと立ち上がろうとしたんですね。そうしたところが、その時、住職がグッと両手を捕まえたんです。

何といってもまだ住職の方が若かったんです。力も強かったでしようね。矢左衛門が立とうとするけれども、両手を抑えられており、立ち上がることが出来ない。

矢左衛門は大きな声で「この手をすぐ離せ」というけれども、黙って腕を握って全然受け付けない。

そして、一生懸命立ち上がろうとする矢左衛門に住職が「わしのような者の手に握られただけでも立ち上がることすら出来んではないか。願力無礙の極まりのない如来様のお慈悲の中に、腕の中に抱きとられていながら、お前はそれでもまだ安心がほしいのか。私のような手で握られただけでも立ち上がれないのに、願力の極まりのない如来様の慈悲の中に抱きとられておりながら、お前は安心や信心をどこかに求めておられるのか。抱いて離したまわぬというお慈悲に間違いがないなら、信心とは、改めて自分の心に信心を起こすのではなくて、抱いて離したまわん、どんなことがあっても捨てんという如来の大慈悲の中に抱きとられているという事を、お聞かせいただくよりほかにない。」とおっしゃった。

そしたらね、矢左衛門も涙を流して。「本当に恥ずかしい事でした。いつか、信心がいただけるものだと思い、一生懸命聞き、一生懸命信心をいただこうとかかっておったが、いつまでたっても我が胸の中を探してみても信心は起こってこない。住職のおっしゃる通り、このしぶとい私を抱いて離さぬ如来の願力の不思議こそ、私の救われる道でございました　南無阿弥陀仏　南無阿弥陀仏」とお念仏なさった。

やがていつの間にやら涙を流しながら、これが願力の不思議やなあ。そういいながら総代と住職はお念仏を申しておりましたというお話があるんです。

本当に我々は、どうか自分の中で安心が出来んかなとフッと思うことがないかなあ。

いつも思うんですよね。いくら探しったってそんなもの出てきませんよ。私の胸の中から出てくるものは欲と腹立ちと愚痴ばっかりであります。そんな中にきれいな心とか、安心とか、真心とかそんなものが出てくるはずがありませんよね。

だから如来様の真心を聞かせていただくと、そのままこいよ必ず救うぞというお慈悲であった。そういただいて離し給わないものが、南無阿弥陀仏であったとお聞かせいただいてみれば、この身このまま、おかげさまでございましたとお慈悲を仰ぐほかな

いのですね。だから歎異抄の第三条においても、自力の心を捨てて、ああでもないこうでもない、これでいいわるい、そんなことは縁のない、ただ救わずんばやまんという、もう地獄より行き場所のない。生死を離るることあるべからざるを憐れみたまいて、迷い苦しむ私をかわいそうだとおぼしめして、そのまま救わずんばやまんという如来のお慈悲を仰ぐより他にないですよということが、ここに言われているのであります。

だから、それを聞かせていただいた念仏者として、皆さんが念仏を汚すような、傷つけるようなことをしない努力をするということも大事なことだろうと思います。

いつも努力をさせてもらう。つまり、私たちの姿を見て仏法を聞こうと思っている人が、去って行っては申し訳ないことであります。やっぱり念仏者として、あの人本当にありがたいなと、あんなに喜ばれて幸せだなあということを、口だけでなくからだの上にも努めてそういう日暮らしをさせていただくということが大事でしょうね。

だけどそれがなかったらお浄土にまいれないなんて思ったらそれはとんでもないことですね。そうじゃなくて、せめてこの世の中で浅ましい私をどこまでも捨てないというお慈悲の中に包みとられておる、抱きとられておるということを、味わわさせてもらうならば、少しでも如来のご恩を思い、そのご恩に報いる道として、喜んでお念仏申させていただく日暮らしをさせてもらうというのは自然の姿なのでしょうかね。本日はこのあたりで

南無阿弥陀仏　南無阿弥陀仏　南無阿弥陀仏　南無阿弥陀仏

記念写真

3月29日 伝灯奉告法要 団体参拝
ご本山御影堂前での集合写真

【ご法座等のご案内】

5月

5/14（日）
午前十時　定例法座　【岡本信之師】
正午　医療相談　【佐藤公彦医師】

5/21（日）
午前十時　なかよしクラブ（乳幼児から小学生まで）

5/28（日）
午後一時　永代経特別法座・祥月命日合同法要
【高田慈昭師】

6月

6/11（日）
午前十時　定例法座　【岡本信悟師】
正午　医療相談　【佐藤公彦医師】

6/18（日）
午前十時　なかよしクラブ（乳幼児から小学生まで）

6/25（日）
午後一時　定例法座・祥月命日合同法要
【高田慈昭師】

本願寺「宗門総合振興計画へのご懇志」を
次の方々から賜りました。

石田美弥子様。　木村トシ様。

（平成二十九年四月末日現在）

編集後記

・三月二十九～三十日。「浄土真宗本願寺派 東京教区北組 伝灯奉告法要 団体参拝」（北組十三ケ寺 約百六十名参加）に誓願寺から十四名参加。本山参拝後琵琶湖・平等院を周遊し無事帰京。

・本山では、第24世即如上人から第25世専如上人にご法灯が受け継がれましたことをご報告する、伝灯奉告法要にご一緒に参拝し、厳粛な二時間余りを過ごし感謝の思いを一層深く致しました。

・二月に部分切除を致しました腎臓はその後の検査で癌と判定されましたが、経過も良好で現在は投薬も特段の治療も行っておりません。半年ごとの経過観察で今後何かあればまた対処の予定です。

・昨年十月に往生をとげられた故綱川利雄様のご遺族よりご寄贈をいただいた打ち敷一式が完成し、三月のお彼岸法要でお披露目をさせていただきました。有難いことです。

［ご寄贈いただいた打ち敷］